

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 12月 19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100090		
法人名	社会福祉法人 正仁会		
事業所名	グループホーム なごみの郷 亀山		
所在地	広島市安佐北区亀山3-4-12 (電話) 082-819-3725		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100090-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年12月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所はグループ理念をもとに、事業所独自の具体的な目標をつくり、地域に密着した介護サービスの提供に取り組んでいる。公民館を拠点に活動している複数のサークルやボランティアの定期的な訪問があり、その際には家族、地域と共に支援を踏まえ、家族様やご近所の方々にも案内をし、協力をいただいている。「その人を知る」「その人を知りたい」との思いで寄り添う姿勢で、人生の最終ステージにおられる方々の第2の家族を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成19年開設のグループホームである。周囲は閑静な住宅街に囲まれながら、国道から近く、また、周辺にはJRの駅が新設予定であるなど、交通至便である。事業所の1階に保育園と認知症対応型デイサービスが併設されており、小さな子どもを持つ職員が預けて働くこともできるほか、高齢者と幼児の交流もできる工夫がなされている。

事業所は、個別外出などの企画や、地域のボランティアの受け入れなども行っているほか、地域住民との友好的な関係を構築し、行事にも積極的に参加するなど、地域にとけこんだ運営を行っている。また、母体法人グループが研修や人員配置などのサポート体制を整えており、職員が安心して働くことのできる事業所である。事業所は広く開放的であり、利用者はのびのびとした雰囲気でも過ごしている一方で、職員も日々自己研鑽に励んでいる事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療と介護の切れ目のない連携を第一に考え、利用者及び家族、地域住民の皆様へ安心して提供し続けることを理念としている。地域密着型サービスを踏まえた項目である「地域と共に生きがい探し」を目指し、公民館を拠点としたサークルと馴染みとなり、定期的に慶福訪問を受けている。	法人全体では、理念をもとに毎年スローガンとなる目標を掲げているほか、この事業所を含む部門ごとの目標があり、行事による利用者満足度の向上や、職能の向上に資する行動目標を立てている。また、地域のサークルの発表の場として事業所を使ってもらうなどの実践が行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	中学校の職場体験を受け入れている。また、地域の各種ボランティアの受け入れや、平成23年度より町内会に入会、廃品回収の協力や清掃活動に加え、防災訓練の参加及び集合場所としての協力をし、地域の方々が立ち寄られる機会が増えている。	町内会に加入し、町内清掃や防災訓練などの地域行事に参加しているほか、回覧板も回してもらっている。また、地域ボランティアの受け入れや中学校の職場体験の受け入れなど、事業所が地域の一員として日常的に交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループホームの利用申し込み者が、満床の為に待機中の場合、機会ある毎に支援の相談に応じている。中学生の職場体験の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	消防訓練へ運営推進会議の委員に参加して頂き「意見」を得て、反映し、訓練の改善をしている。会議内で事業所の取組み「リスクマネジメント」・「看取り」についても報告し、意見を頂いている。	運営推進会議では、事業所の日頃の様子をビデオで映し出しているほか、ヒヤリハット報告、事故報告など、事業所運営に関する詳細を報告し、意見交換を行っている。また、地域の情報を得る場になっているほか、利用者も参加して意見を述べるなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には毎回、市の担当職員へ出席依頼を行っている。また、必要時において市職員と連絡をおこない、介護保険に関する事などを確認し、サービスの質の向上に繋げるように努めている。	地域包括支援センターを通じて市からの情報収集をおこなっているほか、近隣の中学校で認知症サポーター養成講座の講師も行うなど、市の事業に協力している。また、必要に応じて市担当者と話し合いを行い、サービス向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>十分理解している。「身体拘束等の排除の理念及び方針」を各フロアに掲示し、真摯に取り組んでいる。玄関の施錠はしていないが、3階建ての為、階段への扉は電子錠になっている。しかし、利用者の行動は制限することなく、職員が付き添い、いつでも自由にフロアから出ることができる。</p>	<p>身体拘束予防のためのマニュアルを事業所に配置し、職員に注意喚起を行っているほか、契約時に、身体拘束を原則行わない旨の説明を家族に行っている。現在は、身体拘束は行われておらず、介護の工夫により対応がなされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>グループホーム会議で定期的に啓発している。また、研修会にも参加し、事業所内での防止に努めている。傷、アザなどが発生した場合は、事故報告を速やかに挙げ、カンファレンスしている。「いつ発生したか」「何が原因と考えられるか」等話し合い、全職員が情報の共有をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>高齢者に関する権利擁護の研修会に参加している。また、権利擁護に関するマニュアルを整備している。該当するケースはまだない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解約時には、利用者や家族に分かりやすく、担当責任者から十分な説明を行い、理解・納得を得ている。契約時には契約書、重要事項説明書を読み上げ、特に、起こりうるリスクについては、リスク説明書を用いて詳しく説明をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を1回/3ヶ月開催し、運営推進会議には家族代表に参加して頂き、意見・要望を引き出している。また、来設時には近況報告を兼ね、ゆつくりと会話できる時間を作り、要望等が引出せる雰囲気作りを心がけている。各フロア、玄関に苦情箱を設けており、契約時には苦情相談窓口担当者及び、外部の相談窓口の説明をしている。特に苦情はサービスの質の向上に繋げる機会と捉えている旨の説明を機会ある度に伝え、要望等が伝えやすいように配慮している。</p>	<p>家族会には、全家族の3分の2ほどが参加しており、事業所の近況報告や職員も交えた座談会などの方法により、家族からの意見収集を行っている。また、年2回は食事会も兼ねて実施している。さらに、ケアプラン作成時にも聞き取りや情報収集を行っているほか、利用者の好みに応じ、個別外出プログラムにも反映がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1回/月の定期的な会議及び、ミーティング時に意見を出し合っている。また、職員は年に2回、管理者との面談の機会があり、出された意見は管理者から代表者にその旨伝えている。	月1回ミーティングが行われているほか、管理者が随時職員から聞き取りを行っている。また、訪問看護師でもある副施設長が利用者の状態を含めて管理し、人員の要請も含めた対応を素早く行っているなど、職員意見の反映がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員に担当業務（役割）を設定して、日々の業績も含め、定期的の上長と面談を行い、各職員のモチベーションの向上に繋がるように努めている。また、資格取得に向けた支援も行っている。ポイント制も取り入れており、内部研修参加時等に取得したポイント数に応じ、書物の購買や外部研修の参加費用に使用できる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	等級に応じた「育成研修」が開催されている。各種研修会や、1回/月の法人勉強会に参加し、ケアの質の向上に努めている。法人内研修については、年100回以上予定されており、職員には自身の課題を分析してもらい、個々に合わせた研修に4回/年参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター主催の「圏域グループホーム意見交換会」へ参加している。今年8月の意見交換会は当事業所で行われた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至る過程において、本人と家族に会う機会を出来るだけ多く持ち、（施設見学・他のサービス利用時や自宅に伺う）担当責任者及び介護支援専門員、計画作成者が生活歴や生活状態を把握した上で、不安や要望を引き出し、十分に話を聴くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用初期においては、細やかな電話連絡や来設時などの報告・連絡を行うことで良好な関係を構築できるように努めている。特に要望は「サービスの質」を高める為に必要な相談と受け止めている旨を家族に伝え「相談しやすい」雰囲気作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談時にしっかりと話を伺った上で、他のサービスを含め、考えられる支援について、介護支援専門員と相談しながら、情報を提供している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割作りに努めている。出来ることはして頂き、出来るだけ感謝の言葉を伝える場面を作っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>契約時には、利用者に対しては、「常に家族と共に支援」が法人の方針である旨を伝え、理解を得ている。来設時の散歩のお願いや、家族への電話要望への対応のお願いをしている。また、一ヶ月の予定表（カレンダー）を渡し、行事等に参加して頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族のみならず、友人・知人も来設されている。また、なじみの美容院に家族と通っておられる方もいる。</p>	<p>事業所には近隣からの入所も多く、地域のボランティアが訪れる慶福訪問では馴染みの知人も多くいる。また、利用者一人につき専属の職員担当が配置され、一人ひとりの馴染みの関係に留意した支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話し好きであったり、世話役が得意な方に協力して頂くことで、互いの存在が認識できる場面を作り、その中で支えあえるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院及び転居した際も機会をみてお見舞いがてら訪れるようにしている。死亡退所された方のご家族にはグリーフケアの一つとして、四十九日と一回忌に思い出のアルバムや職員のメッセージを送付させていただいている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、表情や言葉の中から本人の思いを把握するように努めている。本人の要望を把握し、実現できるよう、適切なアセスメント様式を活用して意向の把握に努めている。	利用者一人につき、職員が専属で担当が配置され、利用者の思いや意向に努めている。その結果、利用者の個別外出プログラムの実施など、利用者の好みや必要性に応じた介助につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族、サービス提供事業者からの事前面談及び随時の情報収集を基に生活歴等を把握し、その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前情報だけにとらわれず、生活の中で寄り添い、できる力を見落とさないように努めている。また、生活状況の観察及び記録を基に、カンファレンスを実施し、全職員での情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成にあたっては、まず本人、家族の意志・要望の再確認をし、居室担当職員及び他の職員の気付き（私の気付きシート）から、支援経過表を作成している。日々のケア記録と併せ、関係者の意見を踏まえたプランを作成している。</p>	<p>本人や家族の意志や要望を確認し、作成されたケアプランは、利用者個別の担当者によって随時専用シートに記録され、ケアマネージャーがプランを見直す際の参考にしてしている。利用者の日々の行動目標が介護記録の近くにあるなど、現状に即した介護計画になるよう工夫がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のケア記録や経過表、カンファレンス及びヒヤリハット等の記録を、全職員は目を通し、情報の共有に努めている。また、記録を基にした計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の状態に応じて、法人内に所属する理学療法士・言語聴覚士・歯科衛生士などの専門スタッフからアドバイスを受けることで、柔軟に対応している。同一法人内の行事にも参加し、交流を深めている。また、医療機関への受診の際は、家族の状況によっては職員が同行している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアバンク（傾聴ミミの会）の訪問が定期的であり、なじみの関係となっている。生け花クラブの先生や地域の活動サークルの訪問も定期的にある。また地域の祭りへの参加や子ども会の神輿の訪問も受け、地域とのなじみの関係作りに努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>定期的な往診及び医療機関への受診の際には職員も同行し、適切な医療が受けられるように支援している。定期的な歯科の往診があるが、これまでのかかりつけ医の受診希望者には継続して受診できるように支援している。</p>	<p>事業所の協力医が定期的な訪問診療を行っているほか、専門医の受診、協力医以外の受診についても職員が受診に付き添う体制となっているなど、利用者が適切な医療を受けられるような体制ができている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	24時間体制での訪問看護事業所との連携により、定期的及び随時の相談・訪問を実施している。個別ケア記録の他に医療連携シートを作成し、利用者の状態変化や気づきを細やかに記録し、より速やかに医療との連携がとれるように努めている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	24時間体制での医療連携体制は整っており、入院時においても、主治医や病棟看護師長との密なる情報交換を行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	主治医をはじめとした医療との連携により、最期までその人らしく過ごせるように配慮している。また、本人が安心、安全に過ごせるために、グループホームが対応しうる支援方法を踏まえ、方針をスタッフと話し合い、全員で共有している。基本的には本人、家族が希望すれば、施設で看取りを行うようにしている。今年度、現段階で2名の看取りがあった。	利用契約時に重度化した場合の方針について説明を行っているほか、実際に重度化した場合には再度説明がなされている。訪問看護ステーションがグループ内にあり、副施設長も所属しており、終末期の対応において適切な連携がなされている。平成28年度には3名の看取り対応も行っている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	急変時や事故発生時については、マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応については、必要に応じて随時に訪問看護事業所からの指導を仰いでいる。また、吸引器・携帯酸素の使用方の訓練を定期的実施している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	2回/年(夜間時を含む)利用者が参加しての避難訓練を実施しており、消火器の使用法や避難経路の確認及び誘導について全職員が把握している。避難訓練の際は、近所にお知らせし、関心を持って頂くように努めている。また、運営推進会議を通じて、災害時における地域との協力体制は確保できている。	母体法人グループ全体で非常災害時における運営・行動マニュアルが整備されているほか、年2回の避難訓練では消火器の使用、避難経路の確認なども行っている。また、運営推進会議を通じて、地域との協力体制の確保がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳を大切に、受容と傾聴を常に心掛けるように職員に啓発している。「もし自分だったら」「もし自分の家族だったら」の視点に立ったケアが基本であることを繰り返し教育している。帳簿類については、個人情報保護の観点に基づき適正な取扱いをしている。	母体法人グループの名前を冠した「にのみやラーニングカレッジ」という教育プログラムが整備され、権利擁護、接遇、倫理など、利用者の尊厳を保持するための研修が、月1回以上組まれており、職員は積極的に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自然な感情や思いが表出できるよう、個々に合わせた支援をしている。出来ることは個々に応じた声掛けでして頂き、出来ないところをさりげなくお手伝いするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは概ねあるが、本人のペースや要望に沿うように支援している。起床・就寝時間、食事の時間、入浴時間も希望があれば、出来るだけその思いに添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	基本的には、出張理美容サービスを受けている。その際に希望する髪形（パーマや染め等を含む）を伺い、理美容師に対応してもらっている。本人の望むなじみの美容院に行かれる利用者もおられる。希望される利用者には化粧等をお手伝いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備から片付けまで、できることは職員と一緒に手伝っていただくようお願いしている。利用者と職員と一緒に、楽しい雰囲気ですべてできるように努めている。ご利用者の希望を聞き、外出に出かける機会も設けている。	準備や片付けを利用者に手伝ってもらっているほか、おやつ作りの実施、個別外出による夕食プランの実施など、利用者が職員とともに、楽しんで食事ができるような配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>外部委託による量や栄養バランスのとれた食事を提供している。また、個別に量の調整や食形態の変更などの対応を行っている。</p> <p>摂取量（食事・水分）は記録している。</p> <p>水分摂取量は1,500～1,800cc/1日を目標にし、そのために飲み物の工夫やゼリーを準備する等している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>職員は適切な口腔ケアが及ぼす健康維持への効果を理解しており、毎食後に必ず口腔ケアを実施している。自分のできる方においても、必要に応じ食後の口腔内の確認を行うことにしている。また、個別の口腔内状態、口腔ケア方法、ケア用品の一覧と実施状況や評価の一覧を作成し、情報の共有及びケアの統一を図っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を基に、排泄パターンに沿った対応ができています。また、できる限りトイレでの排泄を促している。</p>	<p>排泄チェック表を利用し、適宜、声掛けや誘導を行うことにより、排泄の自立に向けた支援がなされている。その結果、布パンツを使用する利用者が4名いるほか、オムツを使用する利用者はなく、入院などにより身体機能が低下した利用者も、早い段階で自立支援がなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘の予防として、個々の排便状況ならびに食事および水分摂取量と内容には常に気を配っている。また、一日の活動量も踏まえると共に、下剤使用者については排便間隔および便の性状を常に確認している。また、便秘傾向の方にはまず、乳製品（牛乳・ヨーグルト等）を提供し、自然排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>曜日ごとに、一応の入浴予定は決めてあるが、無理な促しはしないようにし、タイミングがあえば入浴していただき、時間や曜日の変更は随時に行っている。</p> <p>希望者はその都度入浴していただいている。手浴・足浴や清拭も要望や状態に応じ施行している。</p>	<p>写真や介助方法の図が載った利用者個別の介助マニュアルが整備されており、一人ひとりが苦痛なく楽しんで入浴できるような配慮がなされている。また、足湯など利用者の状態に応じて対応が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとりの表情や体調を考 慮し、日中の活動への支援をし ている。天候の良い日は出来る だけ外気浴を兼ね散歩をして いる。ソファを設置し、さりげ なく休息できるように努めてい る。 メンタル的な不安等に対して は、添い寝などを行い、安心し てもらえるよう努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>職員は利用者の服薬目的およ び内容を理解しており、適切な 服薬支援をしている。また、誤 薬防止の観点から、複数人によ る確認体制を徹底するように 努めている。薬に関する疑問等 は、常に訪問看護師や薬剤師 に確認するようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>本人の要望や家族からの情報 を基に体操や歌、パズルやぬり 絵のアクティビティーや洗濯 干し、洗濯たみなどの家事を個 々の状況に応じて、負担になら ないように配慮しながら行って もらっている。支援の中で新た な発見もあり、要望に応じて 役割りをもってもらっている。 個別に買い物等の外出の支援 もしている。また、デイサービ スとの交流も行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。</p>	<p>普段行けないような場所への 外出レクリエーションは、事前 に計画を立て、家族に協力して 頂き、支援している。近隣の スーパーへの買い物については 、要望に応じて支援している。</p>	<p>個別プログラムにより、利用 者一人ひとりに応じた外出先 に出かけているほか、紅葉や花 見など、季節に応じたドライブ に出かけているほか、おやつ の買い出し、ホームセンター で利用者が気に入った花を 買うなど、本人本位に検討さ れた外出支援が行われている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。</p>	<p>利用者による直接的な金銭管 理は行われていないが、希望 する購入品があれば、職員と 一緒に買い物に出かけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在、利用者から手紙を出すことはないが、電話連絡の要望にはその都度、施設の電話を使用して対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じることができる。ソファ等も設置し、くつろげるスペースになっている。ホールには折々の思い出の写真や、職員と一緒に製作した季節感あふれる作品を飾っている。また、食事作りの音や匂いが立ちこめたりと、季節や生活を五感で感じ取れるように努めている。	中心には大きなアイランドキッチンがあり、フロア全体を見渡しながらか、利用者も一緒に手伝える空間があるほか、風通しや採光も程よく、ソファの設置などもスペースの余裕を持って設置されている。また、自動消臭スプレーの設置や、清掃がこまめになされており、気持ちのよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアともテーブルおよび椅子を配置したスペースが2ヶ所と、ソファを配置したスペースが1ヶ所あり、それぞれの利用者の思いにより、自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用時に、馴染みのある身の回り品や写真、家具等を持ってきていただくようにしている。また、状況によっては居室環境を和室風に変更することも可能である。	居室は広々としており天井も高く、専用の洗面台や大きなクローゼットがあるほか、利用者の好みに応じて、壁紙の交換や和風の部屋への変更も行うことが可能である。持ち込み品の制限も原則なく、小鳥を飼う利用者もいるなど、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況にあわせ、玄関、トイレ、廊下や風呂場の手すりを設置するなどし、安全確保と自立への配慮をしている。定期的及び随時のカンファレンスにより、出来るだけ現状を維持できるように環境作りに取り組んでいる。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなごみの郷亀山

作成日 平成29年2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	外出の機会が多いが、季節ごとの企画以外の外出先は近場や良くいくところが多い。	・ 外出先の候補拡充 ・ 外出機会の増加	小グループを作り、複数の職員で対応し、外出企画を立てていく。	3か月
2	35	災害時、受け入れの施設となることが予想されるが、災害に対するマニュアルのみで、受け入れのマニュアルがない。	・ 災害時外部受け入れのマニュアルを作成する。	災害対策チーム立ち上げ、マニュアルの作成をしていく。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。